

第38回日本高齢者大会inさいたま東京実行委員会第5回会議

2025年12月23(火)13:30~16:30 南大塚地域文化創造館



1 本日の主な内容

- ・ 第38回日本高齢者大会及び東京からの参加の取り組みの振り返り
- ・ 第39回日本高齢者大会準備
- ・ 第34回ゆたかな高齢期をめざす東京のつどいについて
- ・ 団体・地域の運動交流

2 第38回日本高齢者大会及び東京からの参加の取り組みの振り返り

1) 第38回日本高齢者大会 in さいたまについて

(1) 実行委員会討議のための資料 (p 2)

(2) 基調報告の3つの課題の提起に応じて (p 4)

2) 東京実行委員会の取り組みについて

(1) 第2回東京実行委員会の提起 (p 5)

(2) 参加について

チケット配布 119 団体 4,476 枚

参加者数

現地参加 11日 301人 12日 384人 合計延べ 685人

Web 参加 個人 22 会場 15 合計延べ 127人 + α

全参加者 合計延べ 812人 + α

協賛広告 20 件

(3) ふりかえり

3) 予定 2月12日(木)14:00~16:30 今年度第6回・2026年度第1回会議
東京実委のまとめ確認 次年度の取り組みスタート

3 第39回日本高齢者大会 in おおさか

1) 日本高連事務局会議より (p 6)

2) 企画・運営

3) 東京からの参加の取り組み・申し込み方式、参加目標

4) 意見交換

4 第34回ゆたかな高齢期をめざす東京のつどいについて

1) 実施時期 2027年 2月

2) 地域の運動と連携して 2月実委までに実施地域を決定

5 団体・地域の運動交流

日本高齢者大会中央実行委員会総会の討議にむけての資料

2025年12月10日 中央実行委員会事務局長 畑中久明

すでにご案内のとおり、2026年1月12日(月・祝)に中央実行委員会総会を開催し、第38回大会のまとめと2026年度第39回大会(大阪)の準備をおこないます。

第38回大会のまとめの概要を送りますので、総会議案作成のためのご意見をお願いします。また、大阪大会へのご意見もお寄せください。

1. 第38回大会のまとめの概要

1)参加者数

2日目全体会閉会挨拶で 現地参加2日間で延べ2300人、オンライン245人合わせて 2500人を超える参加と報告しています。

<大会当日に集計した数>

1日目 1125人(夜の交流会30人) *講座分科会は各教室報告+教室間の移動を考慮

2日目 1140人(速報No.2 1500枚印刷 残数360) 2日間延べ2265人

*特別講座・学習講座・分科会・移動分科会

特別講座 暉峻淑子講演・映画上映「ごはん」 542人

学習講座 10講座・5教室 311人 1教室62.2人

分科会 6分科会 194人 1教室32人

移動分科会 3か所 78人 夜の交流会 1か所 30人

要員数 115人 *受付・案内関係の要員数 22人

講師・助言者など 19人

2)参加の特徴

①3000人を下回った。コロナ禍を経て、傾向として参加数は減少傾向です。

過去大会参加数 愛知 3100 東京 3000 京都 3,398 長野 3,570 福島 3,554
オンライン参加者は 500 人程度 *最終集約できていませんが、100名規模の組織は東京と福島。

未参加県 6県 北海道 福井 鳥取 山口 長崎 熊本(*個人1)

37回 愛知大会:大分・長崎・熊本・北海道・岩手・栃木

36回 東京大会:長崎・栃木

35回 京都大会:北海道・岩手・栃木・佐賀・長崎・

長野大会:北海道・岩手・福岡・佐賀・長崎

福島大会:佐賀

中央団体からの参加申し込みが少ない。中央団体の構成員が県連などを通じて参加しているためか。

②感想文提出 1日目 291 2日目 52 計 343 提出は15%

3)全体会の概要

①全体会のオープニング企画は「300人を超える大合唱」「太鼓集団“響”」、来賓は秋山正臣全労連議長、記念講演は芝田英昭さん、基調報告、1分スピーチ、大会アピール採択。

- ②メッセージ 30団体。
- ③会場カンパ 576,865 円。
- ④大会報告集申込 9件 「日本高齢者人権宣言パンフ」販売数 88 冊。
- ⑤出店は8団体(新日本出版社／自治体問題研究社／JAL争議団／医療生協さいたま／トミー工房／婦人民主クラブ／オフィスサリー／母親大会実行委員会)。

3)大会の特徴について

- ①特別講座「暉峻講演」に注目が集まった。高齢な暉峻さんが立ち姿で澆刺と講演している姿に多くの参加者が感動した。講演の内容も今日的なテーマで大いに学び、元気もらったとの感想がおおい。「社会に係ることの大切さを学んだ」との声も。映画「ごはん」も感動したと好評、多くの人に見てほしいとの感想が寄せられた。
- ②高齢者の暮らしや雇用などの現状を分析し、課題と運動の方向を提案するような学者・専門家の基調的な報告が必要ではないか。
- ③社会保障、医療をめぐる高齢者のたたかいをもっと強調していく必要があるのではないか。
- ④講座・分科会は前半と後半で教室を移動している人も見られ、今日的な関心事が反映した面も見られる。特に、「補聴器」が少なくなり、「原発」「言葉」のテーマが増えた。
- ⑤学習講座の教室に比べると分科会の参加数が低調だった(学習講座の1教室平均62.2人、分科会の1教室平均32.3人)
- ⑥全体会オープニング企画の「300人を超える大合唱」は「うたごえ協議会」とのコラボ企画になった。参加者は協議会の小澤氏の集計で「うたごえ」団員187人 大会参加者87人 =274人)。
- ⑦全体会の1分間スピーチをあいち大会に引き続き行った。現場のたたかいを報告、交流する良い機会となった。
- ⑧会場カンパが多く集まり、大会財政を支えた。

4)会場および当日運営面

- ①駅に近く会場は分かりやすかった。一方、建物内が分かりにくく、小ホールと会議室の場所が離れており、移動も大変だった。会場が分からず迷っている人も見受けられた。エレベータも利用しにくかった。
- ②特別講座は会場定数を上回り、席がなく、階段に座る人も現れた。トイレも不自由した。
- ③オンライン、パソコン設定トラブルがあり、対応に苦慮した。
- ④夜の交流会は会場が離れていたこともあり参加者が限られた。一方、参加した人からは大変好評であった。
- ⑤大会速報1号、2号を発行。広報体制がとれたので内容も良いものを作成できた。

(4)高齡期運動の前進のために来年の高齡者大会にむけて運動の飛躍的發展をめざそう

①全国各地で「ひとりぼっちの高齡者をなくそう」の運動を広げよう

高齡者の一人暮らしが増えており、また、低年金、就労、医療、介護、住まいや居場所の問題、さまざまな困難が高齡者にはあります。大会がかかげてきた「ひとりぼっちの高齡者をなくす」のスローガンは今日その意義を大きくしています。また、私たちが目指す「豊かな高齡期」は高齡者だけのものではありません。労働組合や民主団体とも連携を強め、高齡期運動を地域で広げましょう。学び、交流する場として、全国各地で高齡者大会を開こう、そしてその取り組みを日本高齡者大会に結実させましょう。今年の大会の成果を来年の高齡者大会につなげましょう。

②「日本高齡者人権宣言」を力に、国連高齡者人権条約制定の機運を高めよう

国連高齡者人権条約の制定の新たな動きに対して、2022年の京都大会で日本高齡者人権宣言を決定した私たちは、その機運を高めていく大きな役割を持っています。日本高齡期運動連絡会には全国規模の中央団体と各県の高齡期連絡会に多くの人たちが参加しています。その人たちに日本高齡者人権宣言を行き渡らせる大学学習運動をすすめましょう。日本高齡者人権宣言を物差しとして暮らしの実態を可視化し、要求運動につなげる、こうしたとりくみを通じて日本高齡者人権宣言を高齡者の暮らしに活かすとりくみをすすめましょう。また、日本国内外で人権擁護運動をすすめる多くの団体との連携を作っていきましょう。

③平和と人権、軍拡大国、福祉国家日本をめざす共同を広げよう

大軍拡、社会保障解体を阻止し、平和憲法をまもり安心してくらせる社会をつくるために諸団体との共同を広げていきましょう。反動的政治に抗して、日本の民主主義を守り発展する政治勢力を伸長させるために地域でこれまで作ってきた市民と野党の共同の力を一番広げましょう。

第 38 回日本高齢者大会 in さいたま への東京の取り組み(第 2 回実委)

1) 中央実委 6/9 の訴えに応じて

中央実行委員会は、6/9 に 4 都県に向けて事務局長の訴えを送付しました。東京もこれに呼応して、以下のように取り組みを進めます。

(1) 大会の意義の議論と「日本高齢者人権宣言」に基づく運動

- ・ 企画が進行している今回の高齢者大会の内容をつかみ、その意義と魅力を話し合うよう呼びかける。7 月には、内容がよりイメージできるリーフレット発行。
- ・ 高齢期要求全都共同行動の取り組みの呼びかけ、「日本高齢者人権宣言」を地域の高齢者の具体的な状況と結びつけ、暮らしの困りごとを「人権宣言」に照らして、人権の問題として捉える。

自治体と話し合い、高齢者の人権を守る地域をめざす取り組みを進める。

「日本高齢者人権宣言」を自治体の担当者にも渡し、高齢者の権利を保障する自治体の責務を果たすために、高齢者施策の評価基準として「宣言」を活用するよう働きかける。

(2) 地域の団体が集まって、地域実行委員会を開く

(3) 要求・課題や運動を日本高齢者大会に持ち寄り、分科会で発言し、大会の内容を持ち帰って報告会を開くよう呼びかける

(4) 広報・参加促進活動の徹底

- ・ 東京独自ちらしを約 30,000 部作成、参加について詳しく記載
- ・ 各団体の機関紙等への掲載を呼びかける
- ・ 現地参加を重視、地域実委、団体での組織的な取り組みを基本に参加を広げる
- ・ 地域の Web 衛星会場での視聴集会を組織し、より多くの高齢者や関係者が大会に参加できる機会を作る。
- ・ 若い人たちへの呼びかけを意識的に進める。

2) 参加目標

- (1) 目標 11 月 12 日の全体会に東京から 1000 人の参加をめざす
11 月 11 日の講座・分科会にも積極的に参加する
団体、地域で Web 会場を設置する場合は集会的な運営を行う
- (2) 団体・地域で目標を持って参加を組織することを呼びかける

3) 受付

- (1) 東京のつどいと同じチケット方式にし、11 日券、12 日券を発行し、両日とも会場の東京受付でしおりと参加証を渡す。(p 12～13)
- (2) 団体・地域は、参加目標より多めのチケットを預かってください。
残ったチケットは返還する必要はありません。
チケット預かりの連絡を東京実委にメールしてください (p 13 参照)

第39回大会(大阪)について 12月22日 事務局会議 討議資料より

(1) 日程 11月10日(火)・11日(水)

(2) 主会場の大阪国際会議場について

①1日目講座・分科会会場は10階(8会場と総合受付) 8階(5会場) 7階(1会場) 各フロアを占有利用。総合受付は10階がよい、各階にロビーがあるので出店検討できる可能性あり。

<利点>3フロアにまとまっているので会場は分かりやすい

<難点>会場費用が高い。プロジェクターは55000円するので、借用しない。利用したい場合外部から持ち込む=新たな費用発生はできない。

<検討課題>収容人員は各会場スクール形式で1347人、一部机無しにすると1466人。この規模でよいか。教室数は14会場。

<検討課題>最大288人～最少24人と教室にバラつきがある。

②2日目全体会はメインホール 収容人数は2500以上

会場費用が高いことから極力費用を抑制する

<難点>11日の利用時間は9時～13時*12時～13時が時間延長 この枠内で全体会プログラムを組み立てることになる

<難点>プロジェクターは35200円かかるので使用しない。記念講演は手元資料になる

<難点>前日準備はできない。当日も9時利用開始で9時開場、10時30分開会、タイトなスケジュール。この枠でオープニング企画を検討する。オンライン配信は1時間30分で準備できることが条件になる。

③9日午後～11日午前まで荷物置き場として806を確保している。

<検討課題>会場外に場所を確保すれば必要ない。費用は39600円

(3) 10日夜の交流会の会場について

エルおおさか

大阪国際会議場 最寄り駅 京阪電車中之島線 中之島⇒天満橋 4駅 7分

天満橋から300M

または グリーン会館

(4) 大会の意義とテーマ

①情勢について

○戦後80年を超えて、日本の平和と民主主義は危機的な様相を一層強めている。

「あたらしい戦争前夜の様相を一層強めている」

・2024年～2025年の選挙の結果、自民・公明政権が崩壊 国民の政治不信に応えない政治

・野党では国民民主、参政党が伸長、差別と排外主義、反動的世相が台頭

・高市政権はアメリカの要望のままに軍備増強、全国で基地機能を強化、核兵器保有論

・台湾有事・中国の関係を悪化／戦争前夜の体制・全国各地の基地

・大企業優遇税制 大企業内部留保 消費税と法人税 原発再稼働と増設

- 大軍拡の一方、社会保障制度の解体路線、が一層進められている
 - ・医療・介護保険制度の危機・国民皆保険制度の崩壊・介護保険制度
 - ・医療機関の経営難、医療・介護供給体制の危機
 - ・政府は「全世代型社会保障制度」をかかげ、若者世代の負担軽減を口実に高齢者の負担増をすすめる。
- 日本国民の深刻なくらし、日本経済の低迷
 - ・日本経済の低迷、経済格差・所得格差の拡大
 - ・低賃金・低年金、経済物価の高騰
- 日本国憲法と人権をめぐる問題
 - ・国際的にも立ち遅れる ジェンダー問題 選択的夫婦別姓 女性の低年金 生活保護制度
- 高齢者をめぐる情勢
 - ・一人暮らしの高齢者の増加
 - ・高齢者優遇論の浸透

「高齢化が現役世代の負担増に、日本の社会保障制度の維持を困難にしている」 負担増を当然視する風潮、

 - ・低い年金で働かざるを得ない 高齢者の就労を強める 低賃金・労働条件の悪化
 - ・高齢者固有の要求・生きがい・制度改善のたたいかい 補聴器・認知症・助け合い・
- ②高齢者大会の意義とテーマとして重視していくこと>
 - ・平和を民主主義 核兵器廃絶の運動、日本に基地強化、憲法を改悪させない運動
 - ・人権としての社会保障の理念と求められる制度の在り方の追及 医療・介護体制崩壊、医療・介護の自己負担の実態、後期高齢者医療制度の差別的な問題
- ③この間掲げてきたテーマ
- 第38回さいたま大会

『戦後80年、国連高齢者年から25年の年にふさわしい、飛躍をつくる大会にしていきましょう。日本高齢者人権宣言を力に、大軍拡、大企業優遇ではなく、社会保障を充実で、すべての年齢の人が安心して希望のもてる社会をつくる、共同を広げる大会にしましょう』

大会スローガン まちから村からの連帯で ひとりぼっちの高齢者をなくそう

サブスローガン
- 第38回さいたま 分断・対立から共感・連帯へ 築こう平和と人の尊厳
- 37回 あいち 世界中の戦争をなくそう！ 平和な地球と豊かなくらしをとりもどそう！ すべての人が手を取り合って、飢えと貧困をなくそう！
- 36回 東京 ストップ軍拡 かがやけ人権
- 35回 京都 高齢者も若者も手をつなぎ いのち・くらし守る政治！～憲法を生かし「高齢者人権宣言」で豊かに！
- 34回 長野 コロナ禍の今こそ！ 憲法をいかし、いのちとくらし・人権と環境を守り平和で福祉を大切にする社会を みんなの知恵と協同で！
- 33回 福島 みんなで築こう！ 憲法輝く原発ゼロの日本 長寿をともに喜びあえる社会 コロナ禍の今こそ！ 憲法をいかし、いのちとくらし・人権と環境を守り平和で福祉を大切にする社会を みんなの知恵と協同で！
- (5) 企画について
- ①第38回大会の企画にあたってのポイント
 - 1) 国民、高齢者の生活の実態と要求、ねがいを基礎に

- 2) 分断、対立が世界中で広がっている。これを乗り越える連帯を探り、広げる。
- 3) 日本高齢者人権宣言をベースにする。
- 4) 地域で高齢者運動をすすめる力になる

高齢者が意思表示をする絶好の機会として選挙を生かす。

(6) 記念講演と講師について

- ・情勢と大会の意義との関係、過去のテーマを考慮して検討する
- ・時間は50分程度なので、大きな社会情勢のとらえ方、考え方や、講師の生き方の魅力、など
- ・全国に依頼したアンケート回答も考慮する

<直近の講師とテーマ>

38回 さいたま 芝田英昭 戦後80年 いのちの尊厳から平和を考える

37回 あいち 藤井克徳 「人権は生きる力 希望ある社会のために」

36回 東京 柳澤協二 「非戦の安全保障論—戦争しない国であり続けられるために—」

35回 京都 山極壽一 「ゴリラから学んだ多様性と共生が生かされる社会づくり」

34回 長野 中野晃一 「コロナ後のめざすべき社会は？その実現のために必要なことは？」

33回 福島 安斎育郎 「原発事故から8年半 福島の現実と原発ゼロへの道」

③推薦・要望

○宮本憲一（略歴）旧制第四高等学校を経て名古屋大学を卒業後、金沢大学に助手として着任、助教授までつとめたのち大阪市立大学へ。大阪市立大学退官後、立命館大学を経て、滋賀大学学長。経済学博士。2016年、『戦後日本公害史論』で日本学士院賞受賞。2017年、金沢大学より名誉博士称号を授与される。この間、日本財政学会、日本地方財政学会、日本地方自治学会、日本環境会議などで会長など要職を歴任する。現在、大阪市立大学名誉教授、滋賀大学名誉教授。『恐るべき公害』（庄司光氏と共著、1964年）、『社会資本論』（1967年、改訂版1976年）、『都市経済論』（1980年）、『現代資本主義と国家』（1981年）、『環境経済学』（1989年、新版2007年）はじめ、著書・論文多数。

○桐野夏生（略歴）1951年金沢市生まれ。1993年『顔に降りかかる雨』で江戸川乱歩賞、1998年『OUT』で日本推理作家協会賞、1999年『柔らかな頬』で直木賞、2003年『グロテスク』で泉鏡花文学賞、2004年『残虐記』で柴田錬三郎賞、2005年『魂萌え！』で婦人公論文芸賞、2008年『東京島』で谷崎潤一郎賞、2009年『女神記』で紫式部文学賞、2011年『ナニカアル』で読売文学賞、2023年『燕は戻ってこない』で毎日芸術賞と吉川英治文学賞を受賞など、主な文学賞を総なめにする。ほかにも『ポリティコン』『ハピネス』『バラカ』『日没』など著書多数。2015年、紫綬褒章を受章。2021年早稲田大学坪内逍遙大賞、2024年日本芸術院賞を受賞。

2021年より日本ペンクラブ会長。

○浜矩子（略歴）1952年生れ。同志社大学大学院ビジネス研究科教授。一橋大学経済学部卒業。三菱総合研究所ロンドン駐在員事務所長等を経て、2002年より現職。専門はマクロ経済分析、国際経済。『グローバル恐慌』（岩波新書）、『「通貨」を知れば世界が読める』（PHPビジネス新書）、『新・国富論』（文春新書）、『「アベノミクス」の真相』（中経出版）など著書多数。

○北川 進（きたがわ すすむ、1951年〈昭和26年〉7月4日 - ）は、日本の化学者（無機化学・配位空間の化学）。学位は工学博士（京都大学・1979年）。京都大学副

学長（研究推進担当）・高等研究院特別教授、国立大学法人京都大学理事、日本学士院会員。近畿大学理工学部助教授、東京都立大学理学部教授、京都大学大学院工学研究科教授、京都大学物質-細胞統合システム拠点拠点長、京都大学高等研究院副院長などを歴任した。

<さいたま大会 記念講演講師候補>

暉峻淑子 猿田佐世 田中照巳 松本ヒロ 和田秀樹 田中優子 上野千鶴子
ちばてつや

<あいち大会 記念講演講師候補>

池内了 内川恵一 渋谷典子 養老猛 鎌田實 田中優子 荻原博子

（６）講座・分科会の企画

第38回大会の講座・分科会

人権宣言「宣言」学習・「高齢期運動」（分科会）

社会保障「医療費無料」「年金」「財政」（講座）「後期高齢者」「介護」「生保」（分科会）

平和・民主主義 平和と若者・原発・言論（講座）

くらし・まちづくり「交通」「補聴器」「口腔ケア」「就労」（講座）短歌（分科会）

特別企画で映画上映

<意見>

暉峻講演と他の講座が平行していたので参加できなかった

学習講座1時間30分では短い、講師の内容が被ることもある

分科会の組織の難しさ

<35回から37回大会での特徴>

*あいち大会 基地、住まい、災害

*東京大会 農業 マイカード インボイス 認知症

*京都大会 気候変動 若者と語る メディア 憲法 国際交流

継続している企画

日本高齢者人権宣言 高齢期運動 医療費の無料化 年金 介護 口腔 就労 補聴器 短歌 移動
中央団体が担っている企画

*年金者組合・・・年金・補聴器 *全日本民医連・・・介護 *医福連・・・まちづくり・健康
*保団連・・・口腔ケア *建交労・・・就労 *日本高連 人権宣言・高齢期運動

*神奈川県連・・・医療費無料 全生連・・・生保

39回大会の講座・分科会について

この間、継続的に取り組んできた企画についての課題と展望

・宣言・高齢期運動・年金・医療費の無償化・介護・就労・補聴器・短歌・口腔